



「みんなきょうだいのように育ったよ」と話す吉住さん



河浦町出身の小松さんですが、もうすっかり新川の住人



上／移住してきたばかりの小見田さん家族。左から妻の麻理亜さん、一人娘の星藍さん、秀博さん。下／小見田家の庭から一望できる、飯田山と船野山



踊りが奉納されます。「新川に来てすぐに、皆さんが砥川獅子舞の仲間を迎え入れてくれて。それが何よりうれしかったですね。以来、ずっと参加させてもらっています」と笑顔を見せます。

集落の結束を物語るエピソードも飛び出します。「もう何十年前も前のことばってんね」と前置きして話し始めたのは吉住齡亀さん。それは、町の体協主催のソフトボール大会に新川も参加していたころの話。

当時、選りぬきのメンバーで結成された地域もあったようですが、圧倒的に人数が足りなかった新川では、上は50代から下は10代という幅広い年齢の9人がどうにかそろったそうです。「補欠もおらん、でこぼ

こチームですたい。ばってん、新川のみでチームを張れたことがみんなうれしくてね。試合の成績？ そりゃ、聞かんではいよ」と吉住さんが言うのと、どつと笑いが起きました。

集まった人たちの中に、昨年12月に越して来たばかりという、小見田秀博さんがいました。熊本市東区から家族で移住したという小見田さんが、縁もゆかりもないこの地に住まいを構えた理由は、自宅から一望できる飯田山と船野山の風景にあり。目の前にさえぎるものがないその開放感を、一目で気に入ったそうです。

その日小見田さんは、集落の人たちとは初の顔合わせ。「天草出身で海釣りが趣味です。一応船も持っています。よろしくお願いします」とい

「新川は買い物不便だとか水害も心配されますが、ここに嫁いで50年。皆さんいい方ばかりで、住めば都」とはこのこと」と話す須磨さんは宇土市で生まれ育ちました。

小学生のころのこと。須磨さんの母親の実家がある御船町を訪れる際、宇土からかつての辛島公園前でバスに乗り換え、益城を経由して向かうのが当時の公共交通の手段でした。そのバスの乗降休憩所が新川。「バスを降りて辺りを眺めると、木山川の樋門の近くで、男の子たちが水遊びをしていたのを覚えていま

## 幼いころの新川との不思議なご縁

う自己紹介にたちまち皆さんが食いつきます。「俺も海釣り派」「自分も「俺も俺も」と次々に手が上がり、小見田さんと皆さんはすぐに打ち解けました。どうやら新川にまた一人、熱心な釣り仲間が増えたようです。



上／高台の堤防から眺めた新川集落。下／区長の松永さん宅に集まっていた集落の皆さん

集めて車中泊をしながら、ビニールハウスに食材を持ち寄り調理し、皆さん一緒に食事を取りました。倒壊した家では、敷地内の納屋や倉庫を仮住まいとして暮らし、それぞれに再建を目指したそうです。自宅が全壊した松

木山川、藻川、岩戸川が交わる場所にたたずむ集落「新川」。砥川地区でありながらも、古くから新川としての集合体を形成している地域です。現在12戸が暮らし、ここには昔

## 喜怒哀楽を共に生きる

から温かいコミュニティが育まれてきました。

「なんかあつたらすぐに駆けつけて、うれしいこともつらいことも共有してきた、みんなが親戚のようなもんです」と話すのは、区長の松永修一さんです。10年前の熊本地震直後は、集落で協力し合つての自主避難。堤防近くの空き地に各家の車を



少しずつ膨らんできた梅のつぼみが花開く季節。今回の散歩は新川集落。広大な田んぼを南北に挟みながら北側に惣領地区、南側に砥川地区を望みます。穏やかな陽光に包まれながら、心温まる出会いがありました。



「新川は丸一となつて『わがまち散歩』に参加しまーす」と言ってくれた松永さん

永さんは「どの家にも地下水が湧き出ており米もある。食材は各家の家庭菜園でまかなつて。『みんながいるから、こがんとさもどうにかなる』と思えたからこそ、そがん落ち込むことはなかったですね」と振り返ります。

その日、松永さんの家には集落の人たちが顔を出していました。「なさんさま『わがまち散歩が来る』て言うもんだけん」と誰かの一声でのっけから明るいムード。公民館がない新川では、地域の寄り合いは区長宅に集まるのが慣例だそうです。

## 集落の結束を物語るいくつものエピソード

松永さん宅に集まった顔ぶれは、広報紙の令和7年12月号の特集で紹介された「砥川獅子舞」に参加したメンバー。祭りは3年ごとの交代制で毎年行われ、昨年は下砥川と新川の地域の皆さんが担当しました。

「子どものころから祭りが大好き」という、天草の河浦町出身で30年前に妻の実家があった新川に移住した小松政徳さん。小松さんの古里では「海を渡る祭礼」と呼ばれる産島神社の豊漁を祈願する祭りが有名。無人島の産島に船でご神体運び、砥川の獅子舞と同じく、獅子舞や太鼓



どの家にも地下水が湧き出ており、地震直後はこの地下水に助けられました



マキの美しい生け垣と、見事な剪定ぶり。圧巻です



新川を道案内してくれた龍治さん



漬物が得意という妻の須磨さん



須磨さんが描いた庭に咲く「ヤブコウジ」のハガキ絵

す。もしかしたらその中に夫がいたかもしれません。ここに嫁ぐことになったとき、不思議なご縁を感じましたね」と話してくれました。